卒業生にインタビュー

今後、ホームカミングディにて、会長からインタビューをご依頼します。ご協力の程、宜しくお願いします！

たくさんの楽しかった思い出

花井 舜平氏（42期卒業生）

改めて金蘭千里中・高での6年間を振り返ると、僕の学年は元気な学年だったと思う。学校生活においては、仮設校舎や新しい校舎、キャンプ、イギリス研修、高中祭など色々な記憶が呼び起こされる。色々やんちゃしたことも忘れられない。イタズラをして友達とケンカしたこともあった。仮設校舎では、燃えた紙が発見されたことにより金蘭千里史上初の学年荷物検査があった。また、携帯電話持ち込みという規則違反によりキャンプでも全体荷物検査があった。先生方には迷惑や苦労をかけたりした学年だったかもしれないが、その分印象的でとても楽しい学年であった。卒業してから5年経ち大学院生となった今でも友達と交流があり、時折連絡をとり集まっている。あのときの思い出を共有しているからこそ今も仲良く過ごせているのだと感じる。最近は、それぞれ違う分野に進んでいった友達から私生活の中での武勇伝、経験談を聞くのが楽しみになっている。

今になって実感する金蘭千里の良さ

田中 恵美子氏（旧姓：有馬）（12期卒業生）

早いもので尚友会が発足して10年近くが経とうとしています。金蘭千里を卒業したのが昭和54年で、私達12期はオリンピック開催年に同窓会を開く様にしています。学生時代は面識もなかった同級生と新たな付き合いが始まりあらためて金蘭千里の卒業生が社会で立派に活躍している事に驚かされます。年齢的にも皆それぞれ社会的地位もある立場の人達が心置き無く何でも話し合えると言うのは、同級生ならではの事だと思います。それも卒業して何年も経たなくてはわからない良さがあります。少人数の学校だったからこその連帯感や信頼感もあるのでしょう。これからも何かある度に皆で助け合って行くことと思います。あらゆる職種の方がおられます。その先輩後輩と気兼ねなく出会える機会がホームカミングディでありＯＢゴルフコンペであったりします。まだ参加された事の無い方は是非参加されてみてはいかがでしょうか？金蘭千里の良さを再確認できますよ。

卒業生による講演会

中一対象

平成二十五年九月五日（木）

（株）テルミーソリューションズ 代表取締役社長 山本光平氏（七期生）

毎年、中一生に熱いメッセージを送ってくださる山本さん。今回のテーマは「自分にとってのセレンディピティとは？」。ご自身のサラリーマン時代のことや現在の仕事と研究、更には趣味の大カジキ釣りなど、話は多岐にわたったが、どの話題でも、「失敗も生かす」「うまくいっても満足しない」「他の人も幸せに」という三つの思いが強く込められていた。中一生にとっては初めての講演会であったが、自分たちの大先輩からの話ということもあって、たいへん熱心に聴き入っていた。（山内）

中三対象

平成二十六年二月二十四日（月）

原島マネジメント研究所 所長 原島俊郎氏（七期生）

演題は「働くとはどんなこと？」。働くことの意味を知り、自分がどんな仕事に向いているのか、問題意識を持って将来の職業選択を考えるきっかけにしましょうと、易しい言葉づかいで温和に語りかけてくださった。前半は、米国の心理学者ホランドの考えに基づいて考案された「ハビキャリキット」と称する職業カードを用いて、自分の適性・興味関心の傾向について考えてみる作業パート。生徒達は興味津々で賑やかに取り組んでいた。

後半は、人間の興味タイプを六つに分けるホランド理論の解説に移り、このタイプが十八歳から三十歳までに決まり、その「自分らしさ」は幾多の経験の集積によって形成されると強調。そのためにも、有意義で充実した中高時代を送ることがまずは大切だという。自分の将来は自分で創る――この言葉が心に残った。（北代）

高一対象

平成二十五年六月十五日（土）

六月十五日、高校一年生対象に進路講演会が開催されました。

進学してすぐの一回生黒臺陸君は「勉強は自主的に行うものだ」として具体的な心がけを熱く語り、同じく青木はるかさんは「20分テストは偉大だった」と振り返るとともに、学園祭に行くことを勧めてくれました。

また、青木康浩君は医学部5回生の一週間の生活を紹介し、進路に関して「死ぬ気で勉強してください。迷っている人はいい大学に入って下さい。」と自身の体験を踏まえてアドバイスしてくれました。

三者三様に、今を全力で過ごすことが大切だとのメッセージが伝わってきました。後輩のために割いていただいた労に、感謝申し上げます。（中村啓）

✣講演者の言葉

大阪市立大・文 2年 **黒臺 陸さん**（46期）

「進路なんてまだ決まっていないし、この先何をすればいいのだろう。」そう考える人が多いのではないでしょうか。しかし何も焦る必要はありません。両親、友人、先生と話し合いゆっくり決めて下さい。決まった時には何をすればいいか自ずと見えてくるでしょう。将来のなりたい自分に少しずつ近づいていく実感を噛み締めながら、色んなことに取り組み、高校生活を実りあるものにして下さい。

京都大・薬 2年 **青木はるかさん**（46期）

中学・高校の三年間は本当にあっという間に過ぎてしまいます。大学での生活は、全てが自分にとって新鮮でとても楽しいですが、通学中に制服姿の中高生を見ると戻りたいなと思うこともあります。もちろん、勉強も大事ですが、自分が大人になって中高時代を振り返った時、「あの時もっと勉強していればよかったな…」だけではなく、「あの時もっと好きな事をしていればよかったな…」と後悔しないように、有意義に過ごしてほしいと思います。

大阪市立大・医 6年 **青木 康浩さん**（41期）

将来の目標、進路なんて急に考えて見えるものではない。目的地も決めずに闇雲に勉強しようとしても、きっと長続きしない。だからこそ焦らずに「今」この瞬間を大切にして、高校生活や人付き合いを充実してほしいと思う。そうした経験の中で心の琴線に触れるものを見つけて、漠然としてでも将来への展望が見えたら、それに向けて頑張って下さい。